

「途上国の貧困削減と生物多様性について考える ～ NGO が果たすべき役割とは? ～」

開発途上国に住む人びとの多くは生態系に直接依存して生活をしています。生物多様性の保全のためには、住民主体で、持続可能な地域づくりをしていくことが求められます。

「現在の生物多様性の損失速度を 2010 年までに顕著に減少させる」という「2010 年目標」は、達成できませんでした。その結果、生物多様性の喪失が貧困を加速し、その貧困が生物多様性のさらなる破壊につながるという悪循環が生じています。

途上国で貧困を削減し、生物多様性を保全するには何が必要なのでしょうか。また、NGO や市民社会の役割は何なのでしょうか。このシンポジウムでは、東南アジア地域で持続可能な地域づくりを行う海外ゲスト、NGO、研究者、政府機関の方々を迎え、参加者の皆さんと一緒に考えていきます。

日時：2010 年 10 月 23 日（土） 14：30 - 18：30

* 終了後、懇親会を開催予定（18：45～20：30）

場所：女性と仕事の未来館 4 階 ホール

（東京都港区芝 5-35-3）

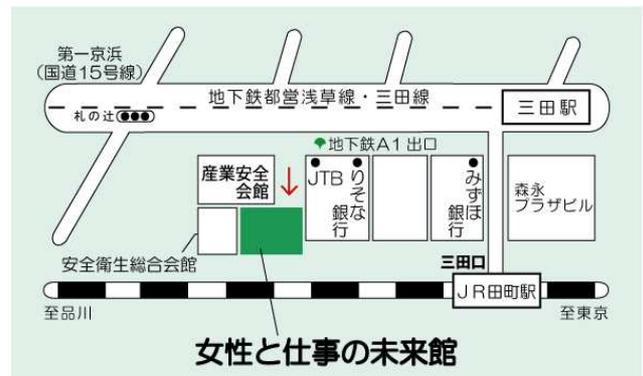
JR 田町駅三田口（西口） 徒歩 3 分

地下鉄三田駅（都営浅草線、都営三田線）A1 出口 徒歩 1 分

主催：（特活）国際協力 NGO センター（JANIC）

支援：環境省

言語：日本語、英語（同時通訳）



主要テーマ

途上国の生物多様性の課題について貧困削減と社会開発、貧困層や先住民族の権利保護の観点から議論します。

海外ゲストから、途上国の現場における持続可能な地域づくりの事例における成果と課題を報告します。

生物多様性保全のために、日本の NGO が果たすべき役割と、途上国の現場で活動する開発 NGO、環境 NGO、人権 NGO の分野横断的な連携のあり方について、「日本の NGO の共同提案（CBD 市民ネット生物多様性と開発作業部会が作成）」を題材として議論します。「日本の NGO の共同提案」は http://www.janic.org/news/post_242.php にあります。

お申し込み

参加費：無料（ただし、懇親会は実費を徴収。お一人様 2 千円～3 千円程度を予定）

定員：200 名（どなたでもご参加いただけます）

受付期間：2010 年 10 月 20 日（水）まで

〔ウェブサイトでお申し込みの場合〕

<http://www.janic.org/event/1023cop10.php>

JANIC 公式サイト > JANIC からのお知らせ > 【10/23】生物多様性 COP10 国際シンポジウム

〔FAX でお申し込みの場合〕 FAX 03-5292-2912

FAX にはイベント名、氏名、ご職業・所属、お役職名、電話番号、懇親会参加の有無を明記してください。

お申込・問い合わせ先：（特活）国際協力 NGO センター（JANIC）

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18 アバコビル 5F

<http://www.janic.org/>

Tel: 03-5292-2911 Fax: 03-5292-2912 mail:advocacy@janic.org（担当：宮下、伊藤）

「途上国の貧困削減と生物多様性について考える ～NGO が果たすべき役割とは?～」
10月23日(土) プログラム(案)

時 間	内 容
14:30～14:35	開会挨拶・会合の進め方説明(環境省)
第1部 基調講演	
14:35～15:10 (35分)	<p>司会進行:山口誠史(国際協力NGOセンター事務局長)</p> <p>基調講演:「生物多様性の重要課題と市民社会の役割～途上国の貧困削減と経済社会開発の観点から」(仮題)</p> <p style="text-align: center;">西川芳昭氏 名古屋大学 国際開発研究科教授</p> <p>質疑応答</p>
第2部 途上国の現場からの事例報告	
15:10～16:10 (合計60分)	<p>司会進行:山口誠史(国際協力NGOセンター事務局長)</p> <p>報告 「ラオスにおける持続可能な地域づくりの事例」(仮題) グレン・ハント氏 (Mr. Glenn Hunt, 日本国際ボランティアセンター ラオス現地駐在 森林プロジェクトマネージャー)</p> <p>報告 「フィリピンにおける持続可能な地域づくりの事例」(仮題) エリザベス・ロハス氏 (Ms. Elizabeth C. Roxas, Exective Director, Environment Broadcasting Circle/ Chairperson of the Civil Society Counterpart Council for Sustainable Development (CSCCSD))</p> <p>報告 「先住民族の伝統的な知識を活かした生態系保全の事例～タイのカレン族の 権利保障の観点から～」(仮題) プラサート・トラカンスハコン氏 (Mr. Prasert Trakansuphakon, Regional Director, Indigenous Knowledge and Peoples)</p> <p>質疑応答</p>
休憩 (10分)	
第3部 パネルディスカッション:「持続可能な地域づくりと公正な資源配分に何が必要か?」	
16:20～18:25 (2時間5分)	<p>ファシリテーター:大橋正明(国際協力NGOセンター理事長)</p> <p><u>日本のNGOの共同提言の発表「持続可能な地域づくりと公正な資源配分に何が必要か」</u> 発表者:森良氏 生物多様性条約市民ネットワーク「生物多様性と開発」作業部 会 部会長/(特活)持続可能な開発のための教育の10年推進会議(ESD-J) 理事/エコ・コミュニケーションセンター 代表</p> <p>パネルディスカッション「<u>日本のNGOの共同提言を受けて</u>」 パネリスト:エリザベス・ロハス氏 Environment Broadcasting Circle 古沢広祐氏 國學院大學 経済学部 教授 森良氏 ESD-J 理事</p> <p>(*環境省、JICA、NGOにもパネリストを依頼中)</p> <p>質疑応答・意見交換</p>
全体総括(15分)	
18:25～18:30	閉会
18:45～20:30	懇親会(任意参加)

(プログラムの詳細は調整中のため、変更の可能性がございますのでご了承ください)